

どうにかしたい！

いまの政治

若い目で見ると
気になります

あんな事、こんな事



役所の「ブラック」もひどい

学童保育指導員や保育士など
公務員でも多くの職員が非常勤
や委託です。フルタイムで働い
ても年収200万円に届きませ
ん。ブラックな働
かせ方変えます。



「21世紀の森と広場」… なぜ利用時間を制限？

「開園時間が9時。太陽が照り
つけ散策が大変、早朝に利用で
きないか」との要望です。

県立公園でも利用時間を制限
していません。散策やランニン
グなどに解放すべ
きです。



議員の賛否は非公開？

議員の賛否の公開をを求める
陳情が自民・公明などで否決さ
れ、ビックリ。

市民の評価が的確になされる
議員の賛否は最低限の情報であ
り公開するのは
当然です。



まつど民報

2014年6・7月号外 日本共産党松戸・鎌ヶ谷委員会
松戸市千駄堀 1810-2 ☎ (349)1544
日本共産党の活動と見解を紹介します



市議会

へ挑戦

25歳

日本共産党

党松戸市青年・雇用
・暮らし相談室長

うらの
浦野 真
しん

松戸市に生まれ育った25歳の
浦野真さん。業者の営業とくらし
を守るために頑張ってきた青年で、
元気な街づくりをすすめるうえで
市議会にぜひとも必要です。



若者の雇用改善は待ったなし。保育所に入れ
ないなど子育て環境を改善し、安心して結婚し
暮らせる松戸市をどいっしょにつくっていきま
しょう。 前県議会議員 みわ由美

消費増税
原発再稼働
集団的自衛権

安倍政権の暴走に レッドカード！

若者が血を流す 「戦争する国」づくりは 絶対イヤ！



子育て 世代応援

認可保育所ふやし安心して働ける環境を



待機児は
681人

ベビーシッターの事件が発生したり、
入所できず住民監査請求がだされるな
ど、保育所不足は行政の責任です。安
心して子育てできる松戸市にします。

医療 介護

特養ホームの増設で安心の老後を

特別養護老人ホームの待機者は1648人。10年前の4倍
に増え入所の見通しはたっていません。「社会に貢献してきたの
に、何のための介護保険なのか」——当然の声です。

公有地も活用し、年金で入れる特養ホームの増設はかります。

業者の 営業守る

中小企業振興の条例を

商店含めたりフォーム助成制度は
地域活性化の起爆剤。業者の仕事確
保が雇用にも連動し市の税収にも貢
献する。こうした街づくり進めます。

彼はどんな相談でも真剣
に受けとめてくれるので会
員からも信頼されています。
消費増税で営業は大変。議
会から業者を守って下さい。
松戸民商会長 阿部一郎

身近な 街づくり

外出を支援するコミュニティバスを

「買い物や病院などに行くのに不便、…お年寄りや障害者、
赤ちゃんや小さな子どもを持つお母さん方が、気軽に外出でき
るよう、コミュニティバスの運行が待たれています。常盤平
や金ヶ作への運行を求める署名をとりこんでいます。

今こそ**憲法**をくらしのすみずみに！

浦野 真 物語

みんなが安心して暮らせる街づくりを

本好きな幼少時代

1989年、松戸市に生まれ育ちました。松戸南保育園の卒園文集に先生が「お部屋で本を読むのも大切だけど、それと同じくらい体をいっぱい動かして大きくなってね」と書くほど本好きでした。

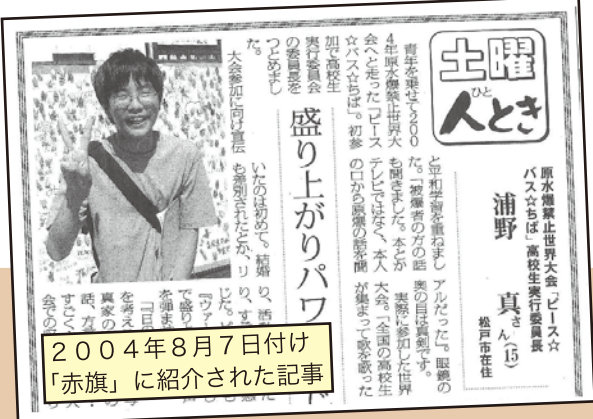
南部小学校では児童会の役員になります。卒業文集には「児童会の議長になって、代表委員会の進行をしたり、行事の司会等をしていくうちに『この仕事は、自分にピッタリな仕事だ』とあります。



不登校を経験した中学時代。高校では平和活動に

2年近く不登校を経験した中学生時代。家で「朝日」と「赤旗」を熱心に読み、政治や社会のことを知る機会になりました。

担任の先生が夏休みに来てくれたり、父が英語の教科書のCDを買ってきてくれたり、周りに



支えられて卒業することができました。姉と同じ国分高校に進学。入学と同時に日本民主青年同盟(民青)に入ります。イラク戦争の真ただ中、高校生が1000人もあつまった平和集会に参加しました。原水爆禁止世界大会では、千葉の高校生実行委員会の委員長をつとめ、被爆者の「結婚も差別された」という話に衝撃を受けます。

18才で共産党に入党

2007年の参議院選挙の時に日本共産党に入党。若者の就職難など「新自由主義」が吹き荒れた第一次安倍政権の時代です。民青の活動に取り組みながら自立への道をさぐります。中学生の勉強を支援したり、趣味のひとつである料理をおぼえたのもこのころです。

業者の実態知り、改善に動く…

2009年、自分の思いを活かせると松戸民主商工会事務局に就職し、1年後に事務局長に。日々のくらしや商売に悩み苦しむ業者さんから多くの相談が寄せられ、その解決に走り回りました。

零細業者は非正規雇用と同じで、病気すれば仕事がなくなり失業保険もない。滞納の督促で自殺した会員を目の当たりにし言葉を失いました。税金や国保の担当職員と顔なじみになるほど市役所に足を運びました。

市議への要請、そして決意

昨年秋「共産党の市議候補に」との要請を受けました。松戸市が市民に冷たい現実には痛いほどわかっていました。

業者の願いにどうすれば応えられるか悩みました。「個別に解決できることもあるが、制度・仕組みという根本を変えることが必要だ」。要請を受けることを決断しました。

議場で憲法の生存権をどう考えているのか問いただしたい。預金を全部差し押さえるようなことは許さない。決意を固めています。



【家族の紹介】
父はつくばの研究所で働く一方、松戸で親たちが中心になって運営する学童保育所の活動にも関わりました。現在、共産党地区委員会の非常勤勤務員。
母は、「しんぶん赤旗」編集局勤務。「女性のひろば」編集長や「赤旗」論説委員を歴任し、地元の共産党支部の活動にも協力してきました。
姉(33歳)は、東京・中野区で共産党の区議会議員(1期目)。